

彩雲

静岡県

文学に対する強固な熱情

文芸同人誌「彩雲」が、ここ静岡県浜松の地に呱呱文学で地球環境改善を祈る願いの声をあげたのは、奇しくも今から十二年前のことであった。爾来、「彩雲」は今日まで、数ある県内文芸同人誌の最前線に立って、県内のみならず中部圏の文芸誌をリードしてきている。それは等しく衆目の一致するところであろう。

「芸術と文学」を貴重な生命力と自負し、生涯の心の支えとする、齢八十を越しながら今なお精力的に文芸誌の発行に取り組む主宰者に率いられた同人諸氏は、いずれ劣らぬ文学に対する強固な熱情がほとばしる。

年に一度開催される合評会には、遠路はるばる金沢から、何と軽自動車で乗り合わせ来浜の面々を先頭に、一人の欠席とてない同人諸氏たちの口角泡を飛ばす議論は深夜にまで及び、いつ果てるとも知れない。かかる熱い文学論議は同人誌「彩雲」に掲載の作品群の、高レベルにつながっている。時間の経過を超越した延々と続く座談は、文学を志す者たちの集まりゆえ当然とはいえ、その熱気は参加者の文学への更なる傾倒を抜き差しならぬものにして、その



「彩雲」11 回合評会にて 文学論に熱を入れる同人たち

後戻りをもはや不可能なものとするに十分な魔力を持っている。作品に対するそれぞれの批評はいずれも一見識あり、有意義かつ貴重な意見交換が交わされるのが常である。御希望とあれば、同人以外でも参加は全く自由であり、広く認められている。希望のある方は、ぜひご参加を願いたい。目から鱗の落ちること、間違いのないところである。ぜひ、ご参加あれ。

力量ある同人のあまたある中で、既に世にある多くの文芸賞を受賞する者も続々と出てきている。名前を挙げればきりが無い程であるが、一例を挙げれば次のような者たちである。緑町優、阿部千絵、馬込太郎、榎林守、鈴木孝之、その他まだまだ続くがきりが無いので、この辺にしておく。いずれ芥川賞の受賞者が出てくるのも間近い、と自信をもって申し上げておく。そのくらい文芸愛好家やその関係者、多くの読者たちに、目を見張らせる存在となっていくことを、改めて申し上げておきたい。

また勉強会と、ことさら大上段には構えぬが、常日頃から絵画、彫刻、書等の造形にも関心を深くし、足繁く県内のみならず首都圏の常設の美術館や展覧会を巡ること、年に幾度あるか、数えることすら不可能である。発行人の心に秘めた座右の銘、文章をもものするためには感性が鈍ってはならぬ、の言葉を胸に、常に研鑽に継ぐ研鑽あるのみと、同人誰一人として、新聞紙上の催し物の広告も疎かにはし



「彩雲」11 回合評会風景

ていない。過ぎたことだが、顔真卿の書展には心を打たれて、訪問者一同声を失ったのみならず後髪を引かれ、終了時間までそこを離れることが誰ひとりできなかったことを申し添えておきたい。

以上、「彩雲」誌の紹介とそこに属し、昼夜を分かたぬ峻烈な上にも、さらに研鑽・努力を己が身に課す、同人諸氏の文学に懸ける姿勢の一端をご案内申し上げて、紹介とさせていただきます。

また、文学だけでなく芸術の面でも同人の親睦を高めるために絵画コレクション等も美術館、喫茶店等の空間を活用して開催する活動を展開しております。

彩雲の会

〒431・2103

静岡県浜松市北区新都田二・二・二〇

彩雲の会

TEL 053・428・2892



同 11 回合評会風景